

「伝え合う」学習活動の可能性

丸山 範高

新・中学校学習指導要領では、国語科の目標として、「伝え合う」という学習活動が新たに盛り込まれた。「伝え合う」ための具体的な学習活動として、どのような活動が想定されるのだろうか。筆者は、伝え合いが実現できる場面だけでなく、伝え合いが容易にはできない場面についても、その実態を省察させる学習活動に大きな学習効果が期待できると考え、授業実践を試みた。

学習者のことばの力の意図的計画的発達を志向する国語科の授業において、「伝え合う」活動は日常的なことばのかけ合いにとどまるものではないということを学習者に自覚させる必要がある。

そこで、本研究では、書きことばを媒介とした話し聞くという総合的な言語活動を通して、どのような学習成果が得られるのかを考察していくこととする。

結果として、相手意識に基づいた「伝え合う」活動を実践しようとする中で、ことばの生かし方を吟味しようとする学習者の反応傾向が見られた。また、授業の前後における反応比較より、ことばを生かすための方法に関する量的および質的側面における変容が認められた。

I 問題の所在

平成10年12月告示の新しい中学校学習指導要領に準拠した授業が今年度（平成14年度）から実践されている。その新しい中学校学習指導要領では、国語科の目標として、ことばを媒介とした「伝え合う」という学習活動が新たに盛り込まれている。^(注1)

「伝え合う力」については、次のような解説がある。^(注2)

この「伝え合う力」とは、適切に表現する能力と正確に理解する能力とを基盤に、人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉によって伝え合う力のことである。

また、河野庸介・相澤秀夫編著『新中学校教育課程講座 国語』には次のような解説もある。^(注3)

「伝え合う力」、つまり、「互いの立場や考え方を尊重して言葉で伝え合う能力」を育成することが求められるのは、「豊かな人間性や社会性」の育成にかかわっている。「伝え合う力」を「社会生活に必要な」言語能力として位置付け、言葉によって各自の考えを出し合い、互いにより良い考えを出し合って、よりよい人間関係を築き、協調しながら社会生活をより豊かに営むことを目指すとともに、「国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること」にも資するようにする。

「言葉によって各自の考えを出し合い、互いにより良い考えを出し合って」「互いの立場や考え方を尊重して言葉による伝え合いを効果的に」行う力、つまり「伝え合う力」を学習者が身に付けるための具体的な学習活動として、どのような活動が想定される

のだろうか。伝え合いが実現できる場面に関する省察活動のみならず、伝え合いが容易にはできない場面に関する省察を通して、ことばをより適切に生かすための方法を見つけ出させるための学習活動にも大きな学習効果が期待できると筆者は考え、授業実践を試みた。

平田オリザ（2001）は国語教育に対する次のような提言を行っている。^(注4)

もしも、初めから分かり合えるのなら、表現の技術などいらないうら。分かり合えないからこそ、私たちは、何かを相手に伝えたいと思うのだ。しかし、現代の子供たちには、「分かり合えない」という経験自体が、決定的に欠落している。（中略）これまで「国語」という科目は、読解や表現の技術だけを教えてきた。しかし、この科目が人間の言語によるコミュニケーション全般を扱おうとするならば、そういった教育方法自体が限界にきているのだ。少なくとも小中学校においては、その発達段階に応じて、「自分の言葉が他者に伝わらない」という強烈な体験をシュミレートさせる必要がある。伝える技術を学ぶ教育から、伝わらないという事態を経験し、その中から子供たち自身の工夫を導き出す体験型の教育へ、国語教育は大きく変革されなければならない。そのときにはじめて、子供の中に表現への欲求も生まれてくる。（施線は筆者による）

言葉によって何かを伝えたいという子供たちの思いを育むためには自分の言葉が伝わってあたりまえという現実を一度解体し、伝わらないこともあり得るという体験をしてみる事が大切だという主張が読み取れる。

拙稿（2002）^(注5)における授業実践では、評論文の読解を通して、説得のために有効な論理を明らか

にすることを中心に据えた。そして、説得のために有効な論理を生かしながら、学習者が自分の書いた意見文をリライトする学習活動を組織した。結果として、授業過程で学び取った説得の論理のうち学習者が望ましいと考えた論理を積極的に組み入れながら、もとの文章をリライトしようとする学習者のスタンスを認めることができた。しかしながら、説得の論理を駆使すれば伝え合うことができるという前提で授業を展開したため、それぞれの学習者が運用した説得の論理について、その論理の有効性を十分に吟味できていたとは言えない。そこで、今回の実践では、伝え合うことができる場面のみならず、それが困難な場面にも学習者を関わらせることで、伝え合うための工夫に関する有効性の吟味が必然的に求められる場に学習者を出会わせることを目指す。

また、さまざま異なる実生活の中で、学習者たちは自ら表現し他者に伝えたいと考えることがらに出会うであろう。ところが、現実的な問題として、自分が伝えたいと考えていることがあったとしても、それをことばを中心とした媒体によって他者に伝えようとした場合、思い通りに伝えることができる時ばかりではない。伝えたいと考えていることを他者へ伝えきするための言語活動と、他者が伝えたいと考えていることを伝えられるための言語活動とにおける双方向の交流、すなわち伝え合いが常に滞りなく実現できるとは限らないのである。

そもそも、「伝え合う」という活動は、日常なことばのかけ合いを通して実現されるものだと考えられることもある。しかしながら、学習者のことばの力の意図的計画的発達を志向する国語科の授業においては、「伝え合う」活動は日常なことばのかけ合いにとどまるものではないということを学習者に自覚させる必要がある。明確な他者意識に基づき、適切なことばを選択して運用しながら「伝え合う」活動を実現させていく必要があると考えているのである。

II 研究の目的と方法

本研究では、書きことばを媒介として話し聞くという総合的な言語活動を通して、どのような学習成果が得られるのかを考察していくこととする。

話しことばではなく書きことばを対象としたのは、これからの国語科授業においては、さまざまなことばの機能のうち認知的側面が重要だと考えるからである。鈴木康之(2003)^(注6)も指摘しているように、話しことばに比べ書きことばの方が学習者のより高度な認識活動が反映されたことばが生成されやすい

のである。

今回の実践では、『中学校学習指導要領』における国語科の学習内容のうち「A話すこと・聞くこと」と「B書くこと」とを結びつけた学習活動を展開した。それは、『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説——国語編——』で「これらの学習活動(=報告や意見発表などのために簡潔で分かりやすい文章や資料などを作成する「書くこと」に含まれる言語活動)は「話すこと・聞くこと」の学習活動と密接な関連をもつ」と指摘されていることもあるが、「A話すこと・聞くこと」に関する学習活動は「B書くこと」に関する学習活動と結び付けて実施しないと学習者自身が言葉そのものを内省する機会を逸してしまうおそれがあると考えたからである。「話すこと・聞くこと」と「書くこと」とを結びつけた学習活動を通して、伝え合うことが比較的簡単にできる考えと簡単にはできない考えとを比較しながら対象化し、それぞれの表現のあり方の違いを明らかにし、自分の考えを伝えきることの難しさについて学習者の省察を促す。そして、表現そのものと学習者を取り巻く諸状況とを絡めながら、伝え合うことができた原因とできなかった原因とを明らかにすることで、研究目的の実現を図る。

自分自身の興味・関心に基づく表現を伝え合うための授業実践を目指す中で、伝え合うことが難しい場合もあり得るという現実に直面させ、ことばをより適切に生かすことの大切さに気づかせることで、そのために必要となる学習の具体的内容を自ら考えるきっかけを与えたいと考えている。さらに、学習者の反応を分析し、伝え合いの授業実践に生かすことのできる指針を得ることも本研究の目的としてとらえている。

授業実践の展開

対 象 広島大学附属中学校 3年C組40名
(男子20名・女子20名)
単 元 伝え合うことのできる考えと
伝え合うことのできない考え
日 時 平成14(2002)年9月18日(水) 4時限・
10月31日(木) 5時限・11月1日(金) 4時限・
11月5日(火) 4時限・11月7日(木) 4時限
[50分×5時間]

学習目標

- ①伝え合うことを目指したスピーチのあり方を学ぶ。
- ②伝え合うことができた考えと伝え合うことができなかった考えとを比較し、その違いを理解する。

- ③伝え合うことができた原因とできなかった原因とを明らかにし、伝え合いを実現させるために必要なことについて多面的に考察する。

学習指導計画

第1次 意見文記述（1時間）

- ・「みんなに伝えたい私（僕）の主張・思い」というテーマで、クラスメイトに伝えたいと思う考えを400字程度の文章にまとめる。

第2次 伝え合い実現のための課題考察（1時間）

- ・「私（僕）の主張・思い」を他の学習者に伝えるために工夫したらよいと思うことについて考える。
- ・「私（僕）の主張・思い」をクラスメイトに伝えるための工夫についてまとめる。
- ・伝える工夫を生かし、必要に応じて第1次の文章をリライトする。

第3次 伝え合いの実践とその考察（2.5時間）

- ・第1次で書いた原稿を見ながら、1対多の形態で8名の学習者がスピーチを行う。
- ・次のような観点で、聞き手はスピーチを聞きながら他者評価を行い、話し手は自己評価を行う。
話し手……自分の主張を伝えることができたかどうか考える。
〔観点〕伝えることができたと思われる点とその理由
伝えることができなかったと思われる点とその理由
聞き手……友達の主張が伝わったかどうか考える。
〔観点〕伝わったと思われる点とその理由
伝わらなかったと思われる点とその理由
- ・自己評価、他者評価の結果を参照しながら、「どのような主張をする時に、どんな工夫が必要か」についてグループで話し合いを行い、発表する。
- ・第1次で書いたスピーチ原稿、自己評価、他者評価を参照しながら、具体例に即して伝えることができた考えとできなかった考えとをまとめる。さらに、それぞれの原因を明らかにするとともに、効果的な方法について考えを深める。

第4次 伝え合うことのできた考えと伝え合うことのできなかった考えとについて総合的考察（0.5時間）

- ・伝えることができた考えとそうでない考えとの違いを多面的に考察する。

学習指導過程

【平成14年9月18日（水）4時限】

- 本時の学習目標を知り、「書くこと」に関する言語活動を行う。

T「今日の授業では、『みんなに伝えたい私（僕）の主張・思い』というテーマで、クラスメイトに伝えたいと思う考えを400字程度の文章にまとめてもらいます。」（指示）

原稿用紙を受け取る。

作業を始める。

T「（書き始めることができない生徒に対する助言）学校のことや家庭のこと、あるいは日本のことや世界のことと考えていることをまとめてみたらどうか。」

【平成14年10月31日（木）5時限】

- 本時の学習目標を知る。

T「今日の授業では、自分が伝えたいと考えていることについて、クラスメイトに伝えるために必要な工夫について考えていきます。」

（説明）

- 第1次で書いた意見文とワークシート①とを活用しながら、本時の学習目標を実現するための活動を行う。

第1次で書いた意見文とワークシート①とを受け取る。

T「自分が書いた文章を参照しながら、自分の思いをクラスメイトに伝えるためにはどのような工夫が必要か考え、ワークシート①質問Ⅰに自分の考えを書きなさい。」（指示）

T「自分の思いを他人に伝えるための工夫について、何人かの人に意見を発表してもらいます。（ワークシート①質問Ⅰの答えを発表）」（発問）

P「実際の例を挙げる。」

P「自分の経験を書く。」

P「事例を比較する。」

P「説明が長くなりすぎないようにする。」

P「言いたいことを一つに絞る。」

P「結論・主張をはっきりさせる。」

P「結論を簡潔にまとめ、一番最後に。」

P「テーマを一番最初に。」

P「接続詞を使う。」

P「スピーチの練習をする。」

P「人の目を見て話す。」

P「言葉にアクセントをつける。」

P「大きい声でゆっくりはっきり話す。」

P「顔に感情を込めて話す。」

P「身振り手振りを使う。」

P「衣装を考える。」
並行して、学習者の意見相互を関連付けた説明をしながら、クラスの意見を以下のようにまとめる。

T「結論を簡潔にまとめ、一番最後にという意見とテーマを一番最初にという意見とは対立する考え方となっているが、どちらか一方が正しくて、もう一方が間違っているというものではない。自分の主張する内容によって適当な方を選べばよい。」(説明)

T「事例を比較するという意見は、実際の例を挙げるとか自分の経験を書くといった意見をさらに発展させたものとなっている。」(説明)

T「クラスメイトが挙げた数多くの意見をすべて盛り込む必要はない。自分の主張を伝えきるために適切だと思われるものだけを取捨選択することが必要である。」(説明)

T「クラスメイトの意見を自分なりにまとめ、ワークシート①作業Ⅰに記入しなさい。」(指示)

T「再度、第1次で書いた文章を参照しながら、自分の思いをクラスメイトに伝えきるためにはどのような工夫が必要か考え、ワークシート①質問Ⅱに自分の考えを記入しなさい。」(指示)

T「また、必要があれば、第1次で書いた文章を赤でリライトしなさい。(ワークシート①質問Ⅲ)」(指示)

第1次で書いた意見文とワークシート①とを回収する。

【平成14年11月1日(金) 4時限】

●本時の学習目標を知る。

T「今日の授業では、実際のスピーチを聞きながら、伝えきれたことと伝えきれなかったことについて考えていくこととします。」(説明)

●ワークシート②を活用しながら注意深くスピーチを聞く。

スピーチを行う学習者が書いた第1次意見文(8名分)とワークシート②を受け取る。

T「クラスメイトのスピーチを集中して聞きながら、ワークシート②に自分の意見を記入しなさい。」(指示)

8人の学習者が、第1次で書いた文章に関するスピーチを行う。(発表)

スピーチを行う学習者選出の基準は次の通りであるが、これに関しては学習者に知らせない。

表現形式面で対比関係にある文章

表現内容面で対比関係にある文章

各スピーチ終了後2～3分程度時間を設け、ワークシート②により自己評価・他者評価を行う。

T「少し時間を取るので、今のスピーチについての自分の意見をワークシート②に書きなさい。」(指示)

●ワークシート③を活用しながら伝えきるための工夫についてグループごとに話し合いをする。

自己評価・他者評価の結果について話し合いをするために5～7人のグループを作り、グループごとにワークシート③を受け取る。

T「座席が近くの友達同士で5～7人程度のグループを作り、グループで話し合いをしなさい。話し合うテーマは『どのような主張をする時に、どんな工夫が必要か』です。グループの代表者1名は記録用紙を取りに来てください。」(指示)

自己評価・他者評価の結果についてグループで話し合いを行い、グループごとに意見をまとめワークシート③に記入する。

ワークシート②とワークシート③とを回収する。

【平成14年11月5日(火) 4時限】

●前時までの学習内容を確認する。

T「自分の思いを伝えきるためには、伝えたいと思っている事柄をただ単に文章にまとめるだけでは不十分だった。資料Aにまとめてあるように前々回の授業では、さまざまな工夫が必要であることを学びました。」(説明)

T「資料Aの工夫点すべてを盛り込んで自分の思いを伝えきることはできるだろうか。例えば、結論を最初に述べるか最後に述べるかなど両方を取り入れることができない工夫もある。どうすればよかったのか。」(発問)

P「工夫すべき点の場合に応じて取捨選択すればよい。」

●本時の学習目標を知る。

T「今日の授業では、どのような主張をするときに、つまりどのような場合に、それぞれどんな工夫が必要かということと、それぞれの工夫をすれば本当に自分の思いは伝えきることができるのか、という二つの点について考えを深めていくこととします。」(説明)

●前時の話し合いの結果をまとめ、発表する。

T「資料Bは、前回、各グループから話し合いの結果として提出してもらったワークシートを一覧にしたものです。今から5分程度でグループごとに発表準備のための話し合いをしてください。(話し合う内容について次のように示唆)この資料Bの内容を補足したり訂正したりして、どのような主張をするときにそれぞれどんな工夫が必要かについてみんなにわかりやすく発表

できるようにしてください。」(指示)

T「それではグループに分かれて話し合いを始めてください。」(指示)

T「(5分後)話し合いをやめて、自分の座席に戻りなさい。池本君のグループから発表してもらうことにします。」(指示)

T「発表を聞くときには、資料Bに適宜メモを加えながら聞きなさい。」(指示)

資料Bの内容にしたがって、池本グループ→平田グループ→日南田グループ→倉本グループ→池田グループ→藤田グループの順に教室前で代表者が話し合いの結果について報告。

●伝え合うことについて考えを深め、効果的な伝え合いのあり方と伝え合うことの難しさを理解する。

○グループ発表のまとめ

T「各グループの代表が発表してくれたそれぞれの工夫点を盛り込んだ主張をすれば本当に自分の思いを伝えることができるのか。」(発問)

P「自信はない。」

P「やってみないとわからない。」

T「資料Bに書いてある各グループの代表が発表してくれたことは、あくまで一般論であり、これらの工夫が具体的にどの程度効果的かははっきりしていないのではないだろうか。」(説明)

○実際のスピーチ原稿に即して考える。

T「そこでもう一度、前回の授業で8人の友達がスピーチをした時に使った文章を見ながら具体的に考えていくことにします。前回配ったスピーチ原稿のプリントを出してください。」

(指示)

T「資料Cを見てください。資料Cは、スピーチの聞き取り用紙の一部をコピーしたものです。スピーチ原稿と合わせて見ていくことにします。」(指示)

T「8人の友達のスピーチのうち、今日は、『アフガニスタンについての主張』『僕は、実は…ではじまる主張』『2月29日誕生日についての主張』の3つを取り上げたいと思います。」(説明)

T「これら3つの主張を比べてみると、どんな違いがありますか。」(発問)

P「箇条書きにより多くのことを主張するか、一つの事柄に絞った主張をするかの違い」

P「自分の身近な事柄について主張するか、非身近な事柄について主張するかの違い」

T「まず『アフガニスタンについての主張』についてから考えていくことにしましょう。もう一度スピーチ原稿と資料Cを黙読してみてください。」(指示)

T「『アフガニスタンについての主張』について伝えきれたと考えられることはどんなことか。

また、なぜ伝えきることができたのか。」(発問)

P「アフガニスタンの惨状。……アフガニスタンと日本との比較がなされていたから。くわしくわかりやすいイメージしやすい書き方をしていたから。」

T「『アフガニスタンについての主張』について伝えきれていないと考えられることはどんなことか。また、それはなぜか。」(発問)

P「女優のこと。青い絵のこと。主張したいことの要点。」

T「これらの内容を伝えきるためにはどんな工夫をしたらよいか。」(発問)

P「女優の活躍がなぜ効果的か、青い絵とは何か、主張の要点は何か、といった説明を付け加える。」

T「他にどうか。」(発問)

P「募金をすること。」

【平成14年11月7日(木)4時限】

●本時の学習目標を知る。

T「今日の授業では、実際のスピーチ原稿と、スピーチを聞いたみんなの意見をまとめた資料Cとを活用しながら、伝えきることが比較的簡単にできることと、簡単にはできないこととを比べ合わせ、その違いを明らかにしていきたいとします。」(説明)

●実際のスピーチ原稿に即して考える(前時の続き)。

T「『アフガニスタンについての主張』について前回残した問題についてもう一度考えていきましょう。スピーチ原稿と資料Cを出してみてください。」(指示)

T「募金をするという内容を伝えきるためにはどんな工夫をしたらよいか。」(発問)

P「募金だけでは解決できないと思われる問題なので募金以外にもできることを述べる。」

P「募金についてより多くの説明を加える。」

P「募金と子供救済との結びつきが不明確である。」

T「次に『僕は、実は…ではじまる主張』について考えていくことにしましょう。もう一度スピーチ原稿と資料Cを黙読してみてください。」

(指示)

T「『僕は、実は…ではじまる主張』について伝えきれたと考えられることはどんなことか。また、なぜ伝えきることができたのか。」(発問)

- P「人間としてのありのままの姿について……わかりやすい短文で書かれていたから。インパクトのある、印象に残る発表だったから。」
- T「『僕は、実は…ではじまる主張』について伝えきれていないと考えられることはどんなことか。またそれはなぜか。」(発問)
- P「最終的に言いたいこと。結論。……事実が書かれているだけで、自分の考えがなかったから。」
- T「例えば、どんな結論にすればよいか。」(発問)
- P「(スピーチをした本人に指名)僕は、実は非常におもしろい人間だと思います。」
- T「次に『2月29日誕生日についての主張』について考えていくことにしましょう。もう一度スピーチ原稿と資料Cを黙読してみてください。」(指示)
- T「『2月29日誕生日についての主張』について伝えきれたと考えられることはどんなことか。また、なぜ伝えきることができたのか。」(発問)
- P「閏月がなぜ2月なのか。……調べたことが書かれてあったから。「まず」「つぎに」などで段落を区切っていたから。」
- T「『2月29日誕生日についての主張』について伝えきれていないと考えられることはどんなことか。またそれはなぜか。」(発問)
- P「2004年に4歳になるということ。……身体的に見て4歳とは考えられないから。自分がその立場にいないから。」
- T「では、どのような表現にすれば伝えきることができるのか。」(発問)
- P「(スピーチをした本人に指名) 結末の部分の訂正したらよいと思うが、どうしたらよいかわからない。」
- T「では、他の人で何か意見がある人はいませんか。」(発問)
- P「閏年以外の年は誕生日を三月一日に振り替える。」
- P「四年ごとに四歳年齢を加算する。」
- T「二つの意見が出たけれど、どう？」(発問)
- P「(スピーチをした本人に指名) どちらも納得できない。」
- 伝えきることが容易にできることと、容易にはできないこととの違いを理解する。
ワークシート④を受け取る。
- T「伝えきることが比較的簡単にできることと、簡単にはできないこととはどのような違いがあるのか。ワークシート④の質問Ⅰと質問Ⅱとに自分の考えを書きなさい。」(指示)

多くの学習者がワークシート④への意見を書き終えた段階で以下の展開をした。

T「伝えきることが比較的簡単にできることにはどのようなものがありますか。」(発問)

P「事実。」

T「確かに事実は伝えきることが簡単にできそうだね。でも、当事者が当事者でないかによって伝わり具合は微妙に変わってくるのではないだろうか。よく考えてみてください。」

T「伝えきることが簡単にはできないことにはどのようなものがあるだろうか。」(発問)

P「意見。」

T「そうだね、相手の立場を考えずに、自分の思い込みのまま伝えようとする、自分の意見は伝わるにくくなると思う。」

●単元全体のまとめをする。

T「自分が伝えたいと考えていることがあっても相手に伝えきれる時ばかりではないことを学んできました。伝えたいと考えていることを相手に伝えきるためには、時と場合に応じて、さまざまな観点から自分自身の表現をじっくり吟味することが必要だと思います。どういう時にどんな工夫が必要か、みなさんがこれからだれかに何かを伝えたいという場面に出会った時、これまでの授業で学んだ工夫を参考にしながら自分自身の表現を練ってほしいと思います。」(説明)

Ⅲ 結果とその分析

後掲資料D(ワークシート④に対する反応)における「質問Ⅱ 2」と「質問Ⅱ 3」に対する学習者の反応には、「自分だけの思いは、他人からすると共感しにくいし、理解もしにくいから」「相手の気持ちになり分かりやすいかどうか考えてみる」「聞く方も話す方も伝えられるように努力する」「受け止める側の妥協・譲り合い。知ろうと考える努力の姿勢。」といった、受け手に対する配慮の必要性を訴えたものが多く見られた。「伝え合う」ことが困難な状況を具体的に把握させる授業展開により、自分とは異なる他者という存在に対する相手意識が顕在化する中で学習者自らの考えを表現しようとする。結果として、自己の立場を相対化し、自己と他者との関係性の中で「伝え合う」言語活動を実践していこうとする学習者のスタンスを確立させることができたとする。

さらに、相手意識に基づいた「伝え合う」活動を実践しようとした場合、ことばの生かし方を吟味しようとする傾向が見られた。後掲資料D(ワーク

シート④に対する反応)における「質問Ⅱ 2」と「質問Ⅱ 3」に対する学習者の反応からもわかるように、「自分で思っているもなかなかいい言葉が思い浮かばないというのもあるかもしれないので。」「自分の思いを考えるのは簡単だけど、言葉にして表すことは思いとは違った感じになることがあるから。」「説明が足りないから。」「わかりやすい事例に置き換える。」「できるだけ主張は簡潔にし専門用語も使わずわかりやすくする。」「言葉でイメージさせるような表現方法を使う。」「結論と説明とを接続詞等を使ってきちんと分ける。」「自分がどうしてそう考えたかなどの、根拠や理由をきちんと説明する。」「一般論と比較してみたり、多くの視点から意見を述べる。」といったことばの生かし方が具体的に示された。ワークシート④では、「ことばをどう生かしたよいか」といった趣旨の質問をしていないにもかかわらず、概念化に関するもの、語彙選択に関するもの、さらには、文章の論理構成や全体構成に関するものなど、多くの観点からことばの生かし方が具体的に提示された。したがって、「伝え合う」活動において、ことばを生かすことが果たす機能の重要性をさまざまな視点から認識している学習者が多いと結論付けることができる。

また、後掲資料A(ワークシート①における質問Ⅰと質問Ⅱに対する反応)と後掲資料D(ワークシート④に対する反応)との比較考察から、「伝え合う」学習活動における学習者の発達に関わる変容を指摘することができる。授業導入段階における後掲資料Aの反応に比べ、授業まとめ段階における後掲資料Dの反応の方が、ことばを生かすための方法に関して量的な側面のみならず質的な側面においても豊かさが見られる。

量的な側面に関するものとして、例えば、「自分がどうしてそう考えたかなどの、根拠や理由をきちんと説明する。」「一般論と比較してみたり、多くの視点から意見を述べる。」といった、授業まとめ段階における後掲資料Dで新たに付け加わった反応が認められた。潜在化されていたあるいは未知の状態にあったと考えられることばを生かすための方法を授業過程を通じて顕在化させることができたと言える。

質的な側面に関するものとしては、「事例だけでなく自分の意見も入れ全体にまとまり性を出す。」「結論と説明とを接続詞等を使ってきちんと分ける。」のように授業導入段階における後掲資料Aの反応を複数組み合わせたものや、「身近なことの例を挙げるとイメージしやすくなる。」のように授業導入段階における後掲資料Aの反応をより具体化したものなども見られた。これらの反応はことばを生かすための方

法に関する質的な発達であると、筆者は解釈している。

ことばを生かすための量的および質的側面に関する学習者の発達に関わる変容は、「伝え合う」実践を目指す中で伝え合うことが困難なことも必然的に起こり得るという事態に気づかせるという方向での授業展開に起因するものであると考えている。ただ単に「伝え合う」だけを目指した学習活動でも、相手意識やことばを生かすことの重要性をある程度認識させることはできるであろう。しかしながら、自己と他者との相互交流の中で、よりよい「伝え合う」活動を志向するための方法を吟味することには限界があるであろう。伝え合うことが困難なことも必然的に起こり得るという言語活動を具体的かつ現実的レベルで実践することにより、よりリアルな形で問題点とその克服の方法とを考えることができるような状況に学習者を追い込むことができたと推察する。

IV 「伝え合う」学習活動に関する考察

「伝え合い」に関わる言語活動の実現を目指した国語科授業構築のための指針について考察する。

伝え合うという言語活動は、伝え合う内容・伝え合う形式等をさまざまに限定された場の中で一人ひとり異なる学習者同士が向き合うことによって成し遂げられるものである。したがって、その言語活動は具体的かつ状況可変的な性質を持つものと考えられる。

したがって、伝え合うための授業実践を考えていく場合、伝え合いに関わる具体的な場と切り離された状況で学習を進めさせるのは適切ではない。つまり、伝え合うために効果的な工夫を一般化・法則化させるにとどまる実践は、その工夫を実際の伝え合いに適用する段階でつまづきが生まれる可能性がある。伝え合いに関わる具体的な場に学習者が直面しながら伝え合うための工夫をし、ことばをより適切に生かすことができるような学習過程を組み立てていくことが求められる。つまり、伝えきりたいと考えている内容を具体的かつ明確にし、スピーチなのか対話なのかといった形式を定め、その状況に合った工夫を取捨選択しながら、相手の立場を意識しながら言葉のやりとりを重ねていくことによって、伝え合いは実現されていくものだと考える。

また、肯定的な達成目標(「伝え合う」)を目指した学習の中で、達成できないこと(「伝え合うことが難しい」)もあり得るという現実学習者を出会わせることで、「なぜか」「どうしたらよいか」といった類の反省的思考を喚起することができる。そして、

そのような思考習慣を積み重ねていくことで「伝え合う」力は身についていくと考えている。

注

- (注1) 文部省『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説——国語編——』(東京書籍 平成11年9月6日発行 P10)によれば、「『伝え合う力』を高めることは、今回の改訂で新たに加えられた。これは、今回の改訂で特に重視した力である。」とある。
- (注2) (注1)に同じ。(P10)
- (注3) 河野庸介・相澤秀夫編著『新中学校教育課程講座 国語』(ぎょうせい 1999年12月5日発行 P24)
- (注4) 平田オリザ「伝わらないという体験から『国語』を学ぶ」(『教育の論点』文藝春秋 2001年8月30日発行 P302~P304)
- (注5) 拙稿「文章読解が学習者の説得の論理に及ぼす影響について」(『中・高等学校 研究紀要 第48号』広島大学附属中・高等学校 平成14年3月28日発行 P1~P16)

(注6) 鈴木康之「国語教育の現状を深刻に考える——いま、なにをしなければならぬのか」(『国文学解釈と鑑賞 第68巻1号』平成15年1月1日発行 P8・P12)によれば、「コトバは、伝達的手段であるとともに、認識・思考の道具でもあるのだが、伝達的手段であるという側面だけが強調されて、いままで以上に、コトバによる認識・思考の教育が軽視されることになってしまっているのである。(中略)話し合いことばの次元であれば、おたがいの情報交換が基調となるだけに、単語の連なりを手がかりにして『現実』をイメージしてみせるというような認識活動には縁が遠い。」とある。

(注7) (注1)に同じ。(P99)

付記

本稿は、2002年度(平成14年度)中学校・高等学校教育研究大会における口頭研究発表「伝え合うことのできる考えと伝え合うことのできない考え」を基に、加筆修正したものである。

資料 I

ワークシート①

※「みんなに伝えたい私(僕)の主張・思い」というテーマで以前書いた文章を読み返しながらかえなさい。

質問Ⅰ 君が書いた意見文の内容をスピーチによりクラスメイトに伝えきるためには、どのような工夫が必要だと思いますか。自分の考えを箇条書きでまとめなさい。

作業Ⅰ 右の質問Ⅰに対するクラスメイトの意見をまとめなさい。

質問Ⅱ クラスメイトの意見を参考にしながら、再度かえなさい。君が書いた意見文の内容をスピーチによりクラスメイトに伝えきるためには、どのような工夫が必要だと思いますか。自分の考えを箇条書きでまとめなさい。

質問Ⅲ 必要ならば、君が書いた意見文を赤で訂正しなさい。

ワークシート②

※以下の質問の答えを記入しながら、クラスメイトの発表「みんなに伝えたい私(僕)の主張・思い」を集中して聞きなさい。

1 [] さんの発表について

質問Ⅰ クラスメイトが主張したことがらのうち、君に伝わったことは何か。

質問Ⅱ なぜ、君に伝わったのか。その理由を書きなさい。

質問Ⅲ クラスメイトが主張したことがらのうち、あまり伝わってこなかったこと(=クラスメイトの気持ちがあまり理解できないと思ったこと)は何か。

質問Ⅳ なぜ、君に伝わらなかったのか。その理由を書きなさい。

2 [] さんの発表について

質問Ⅰ クラスメイトが主張したことがらのうち、君に伝わったことは何か。

質問Ⅱ なぜ、君に伝わったのか。その理由を書きなさい。

質問Ⅲ クラスメイトが主張したことがらのうち、あまり伝わってこなかったこと(=クラスメイトの気持ちがあまり理解できないと思ったこと)は何か。

質問Ⅳ なぜ、君に伝わらなかったのか。その理由を書きなさい。

3 [] さんの発表について

質問Ⅰ クラスメイトが主張したことがらのうち、君に伝わったことは何か。

質問Ⅱ なぜ、君に伝わったのか。その理由を書きなさい。

質問Ⅲ クラスメイトが主張したことがらのうち、あまり伝わってこなかったこと(=クラスメイトの気持ちがあまり理解できないと思ったこと)は何か。

質問Ⅳ なぜ、君に伝わらなかったのか。その理由を書きなさい。

4 [] さんの発表について

質問Ⅰ クラスメイトが主張したことがらのうち、君に伝わったことは何か。

質問Ⅱ なぜ、君に伝わったのか。その理由を書きなさい。

質問Ⅲ クラスメイトが主張したことがらのうち、あまり伝わってこなかったこと（＝クラスメイトの気持ちがあまり理解できないと思ったこと）は何か。

質問Ⅳ なぜ、君に伝わらなかったのか。その理由を書きなさい。

5 [] さんの発表について

質問Ⅰ クラスメイトが主張したことがらのうち、君に伝わったことは何か。

質問Ⅱ なぜ、君に伝わったのか。その理由を書きなさい。

質問Ⅲ クラスメイトが主張したことがらのうち、あまり伝わってこなかったこと（＝クラスメイトの気持ちがあまり理解できないと思ったこと）は何か。

質問Ⅳ なぜ、君に伝わらなかったのか。その理由を書きなさい。

6 [] さんの発表について

質問Ⅰ クラスメイトが主張したことがらのうち、君に伝わったことは何か。

質問Ⅱ なぜ、君に伝わったのか。その理由を書きなさい。

質問Ⅲ クラスメイトが主張したことがらのうち、あまり伝わってこなかったこと（＝クラスメイトの気持ちがあまり理解できないと思ったこと）は何か。

質問Ⅳ なぜ、君に伝わらなかったのか。その理由を書きなさい。

7 [] さんの発表について

質問Ⅰ クラスメイトが主張したことがらのうち、君に伝わったことは何か。

質問Ⅱ なぜ、君に伝わったのか。その理由を書きなさい。

質問Ⅲ クラスメイトが主張したことがらのうち、あまり伝わってこなかったこと（＝クラスメイトの気持ちがあまり理解できないと思ったこと）は何か。

質問Ⅳ なぜ、君に伝わらなかったのか。その理由を書きなさい。

8 [] さんの発表について

質問Ⅰ クラスメイトが主張したことがらのうち、君に伝わったことは何か。

質問Ⅱ なぜ、君に伝わったのか。その理由を書きなさい。

質問Ⅲ クラスメイトが主張したことがらのうち、あまり伝わってこなかったこと（＝クラスメイトの気持ちがあまり理解できないと思ったこと）は何か。

質問Ⅳ なぜ、君に伝わらなかったのか。その理由を書きなさい。

9 自分の発表について（スピーチをした人のみ記述）

質問Ⅰ うまく伝えられたと思うことは何か。

質問Ⅱ なぜ、うまく伝えられたのか。その理由を書きなさい。

質問Ⅲ クラスメイトに伝えきれなかったと思うことは何か。

質問Ⅳ なぜ、伝えきれなかったのか。その理由を書きなさい。

ワークシート③

※次のことがらについて、5～7人のグループで話し合いをし、その結果をこのワークシートにまとめる。

[メンバー]

発表者（ ）

記録者（ ）

（ ）

（ ）

（ ）

（ ）

（ ）

（ ）

[話し合う内容]

相手に自分の主張を伝えきるために必要な工夫は非常にたくさんある。しかし、そのすべてを用いるのではなく、必要に応じて取捨選択することが大切であるということを昨日（10月31日）の授業で確認しました。

そこで、どのような主張をする時に、どんな工夫が必要かについて、グループで話し合いをしなさい。

[話し合いの結果]

ワークシート④

質問Ⅰ 伝えきることが比較的簡単にできると思われることは、どのようなことがらか。

質問Ⅱ 1 伝えきることが簡単にはできないと思われることは、どのようなことがらか。

質問Ⅱ 2 なぜ、伝えきることが簡単にはできないのか。その理由を書きなさい。

質問Ⅱ 3 どうすれば伝えきることができるようになると考えるか。

資料Ⅱ

資料A 伝えきるための工夫

(ワークシート①に関する反応) 一覧

実際の例を挙げる。
自分の経験を書く。
事例を比較する。
説明が長くなりすぎないようにする。
言いたいことを一つに絞る。
結論・主張をはっきりさせる。
結論を簡潔にまとめ、一番最後に。
テーマを一番最初に。
接続詞を使う。
スピーチの練習をする。
人の目を見て話す。
言葉にアクセントをつける。
大きい声でゆっくりはっきり話す。
顔に感情を込めて話す。
身振り手振りを使う。
衣装を考える。

資料B グループでの話し合い結果

(ワークシート③に関する反応) 一覧

グループO

自分の希望とかを言う時に根拠を述べる。
事例を持ってきて相手を納得させる。
自分の話にプラス・マイナスを言う。
自分が説明したい事を整理して簡潔にまとめる。
ゆっくり大きな声ではっきりと。
問いかけをして相手を引き込む。

グループP

主張がたくさんあるときは、段落分け、あるいは箇条書きにする。
個人的な夢や主張は具体例を出す。
専門用語は控える。
いかなるときも感情を込める。
話の規模が大きい場合は最初に主張を述べる。
みんなが話の内容を知っている場合は簡潔に。
かたすぎる主張はなるべくやわらかくする。

グループQ

印象を持たせたいとき、箇条書きにし、重要なことを絞り出す。
強調したいことを大きな声で何度も繰り返す。

グループR

どんな主張の場合でも練習が必要である。
自分が一番主張したい所を強調して言う。
声を大きく、ゆっくりと。
意見を主張する場合には、理由をはっきりさせる。
真剣な話は真面目な顔で言う。
ややこしい話は図解で説明する。

グループS

話の内容によって声を使い分ける。

資料C スピーチ聞き取り

(ワークシート②に関する反応) 結果一覧

[アフガニスタンについての主張]

質問Ⅰ クラスメイトが主張したことがらのうち、君に伝わったことは何か。

日本は恵まれているということ。
親のいない子供を少しでも救いたい。

アフガニスタンは危険だということ。

アフガニスタンの現状。

アフガニスタンの状況が少し。

なし。

質問Ⅱ なぜ、君に伝わったのか。その理由を書きなさい。

アフガニスタンと日本の教育を比較してくれていたから。

一番最後に書いてあったから。

赤や青の石で安全かどうか見分けると書いてあったから。

日本との比較や例があった。

こういうことを考えることはすごいと思ったから。

アフガニスタンと日本を比べたから。

質問Ⅲ クラスメイトが主張したことがらのうち、あまり伝わってこなかったこと（＝クラスメイトの気持ちがあまり理解できないと思ったこと）は何か。

最後の方のこと。

全体的に言いたいことがわからなかった。

青い絵。

藤原紀香がどうしたのか。

募金をすること。

自分の意見をもう少し入れる。

質問Ⅳ なぜ、君に伝わらなかったのか。その理由を書きなさい。

もっとはっきり言ってほしかった。

ごちゃごちゃしていたから。

青い絵は何を表しているのかよくわからなかった。

藤原紀香はあまり話に関係ないと思うから。

募金をすることはちょっと違うから。

全体的にわけがわからなかったから。

〔僕は、実は…ではじまる主張〕

質問Ⅰ クラスメイトが主張したことがらのうち、君に伝わったことは何か。

〇〇という人間。

自分の意外な所などを書いていておもしろかった。

4年間体重が変わってないこと。

質問Ⅱ なぜ、君に伝わったのか。その理由を書きなさい。

箇条書きで何回も同じようなことを続けたから。

わかりやすい短文から成り立っていたからだと思う。

聞いている人の反応。

質問Ⅲ クラスメイトが主張したことがらのうち、あまり伝わってこなかったこと（＝クラスメイトの気持ちがあまり理解できないと思ったこと）は何か。

自分の結論。

最終的に言いたい事。

海外に行ったことがないこと。

質問Ⅳ なぜ、君に伝わらなかったのか。その理由を書きなさい。

結論はないと思ったが、なくてもおもしろかったので別に悪くはない。

気持ちが全く含まれてなかったから。

聞いている人の反応。

〔2月29日誕生日についての主張〕

質問Ⅰ クラスメイトが主張したことがらのうち、君に伝わったことは何か。

閏月が何で2月だったのかという疑問の気持ち。

なぜ閏日が2月29日なのか。閏年以外の年はいつが誕生日なのかわからない。早く2004年になってほしい。

なし。

質問Ⅱ なぜ、君に伝わったのか。その理由を書きなさい。

閏月が何で2月だったのか調べたって言っていたから。

段落ごとに「まず」とか「つぎに」とかで区切ってあり、それぞれに主張が書いてあるから。

なし。

質問Ⅲ クラスメイトが主張したことがらのうち、あまり伝わってこなかったこと（＝クラスメイトの気持ちがあまり理解できないと思ったこと）は何か。

4歳という年齢。

思い。

質問Ⅳ なぜ、君に伝わらなかったのか。その理由を書きなさい。

別にそんなことはないと思うから。

もっとはっきり言えばよかった。

資料D 単元のまとめ

(ワークシート④に関する反応) 一覧

質問Ⅰ 伝えきることが比較的簡単にできると思われることは、どのようなことがらか。

事実・事例・経験。

一般的な問題。

今現在世界中で問題になっていること。

聞き手の人も経験があることや、多くの人を知っている事実・実例。

伝える相手にとって身近なことの方が説明がいらないので伝えやすいと思った。

事実に対する意見。

自分の思いを書いた中で、みんなが共感できることがら。

うわべの気持ち。

自分の夢。

話していることの中心のこと。

くり返しでてくること。

理由を説明した自分の考え。

目的と手段とが結びついた考え。

自分の言いたい事が最後か最初にあるもの。

まとまり性があるもの。

質問Ⅱ 1 伝えきることが簡単にはできないと思われることは、どのようなことがらか。

自分の思い。

意見・主張。

伝える相手が普段関係していないこと。

聞いている人が知らないことを説明するとき。

話し手の特別な立場での感想や結論。

専門知識が必要な内容。

世界情勢等、規模が大きいことがら。

相手と違う自分の考え。

思いや答えが人によってそれぞれ違うこと。

変わり移るもの。

自分が一番みんなに伝えたいこと。

説明の少ない言葉。

自分の考えだけを書いたもの。

いろいろな事をたくさん書いたもの。

事例ばかりを載せたもの。

結論のないもの。

結論が簡単には出せないもの。

質問Ⅱ 2 なぜ、伝えきることが簡単にはできないのか。その理由を書きなさい。

話し手の立場で話を進めがちになるから。

自分だけの思いは、他人からすると共感しにくいし、理解もしにくいから。

一人一人考え方が違うから。

人によって考え方は違い、読んだ人と聞いた人では聞き取り方が違うから。

個人の気持ちの問題は、その本人にしか、出せない問題であって結論を出すことができるのも本人の意志で決まるものだと思うから。

答えがないから。

説明が専門的だとそのことを知らない人にとっては理解しにくいから。

話の規模が大きすぎると、内容をつかみにくいから。

伝えたいことについて自分の思うことがたくさんありすぎるから。

自分で思っているもなかなかいい言葉が思い浮かばないというのものもあるかもしれないので。

自分の思いを考えるのは簡単だけど、言葉にして表すことは思いとは違った感じになることがあるから。

説明が足りないから。

結論やそこに行きつくのが複雑でわかりにくいから。

伝えようとするほど説明が長くなり、ごちゃごちゃしてよくわからなくなってしまうから。

質問Ⅱ 3 どうすれば伝えきることができるようになるか。

相手の気持ちになり分かりやすいかどうか考えてみる。

聞く方も話す方も伝えられるように努力する。

人に聞いてもらったりして何度ももっといい表現や言葉はないか考える。

受け止める側の妥協・譲り合い。知ろうと考える努力の姿勢。

自分以外の人の良い点を見つけ、盗む。

自分の思っている世界に文章で聞き手を引き込んだり文章の内容を順を追って詳しく書くと良いと思う。

ユーモアを入れ、読むときは大きな声でゆっくりはっきりと。

少数人数で話す。

伝えきける方法は、個人個人やり方があると思う。ただ、何をするにも、まずは自分が何を書いてその主題をどうしたいとか見当を立てた後、行動を起こした方が良いと思う。その上で、その主題に合った方法を取捨選択し、結論をしっかりと述べれば良いと思う。

わかりやすい事例に置き換える。

事例だけでなく自分の意見も入れ全体にまとまり性を出す。

説明をわかりやすくする。

自分の意見をはっきり述べる。

身近なことの例を挙げるとイメージしやすくなる。

できるだけ主張は簡潔にし専門用語も使わずわかりやすくする。

文章だけでなく、絵や図、または写真やビデオなどを用いて説明する。

言葉でイメージさせるような表現方法を使う。

結論と説明とを接続詞等を使ってきちんと分ける。

伝えたいことがたくさんある中の、一番伝えたいものを抜粋し、簡潔にまとめる。

自分がどうしてそう考えたかなどの、根拠や理由をきちんと説明する。

一般論と比較してみたり、多くの視点から意見を述べる。

ボキャブラリーを増やし、似たような表現で何度もくり返す。